

館長だより 第11号(令和7年11月)

古墳群は通常とおり開園しています

11月12～20日の臨時休園では、古墳群の散策路を利用される皆様にご迷惑をおかけしました。野生動物の目撃情報をうけて、とくに現在全国的に問題となっているクマの存否を調査していたため、調査においてはクマの存在が確認されなかったことから20日に立入り制限を解除し、平常通りの開園に戻しました。

猛暑で木々がだいぶ痛めつけられたせいか、本格的な紅葉の時期を迎える前に多くの広葉樹が葉を落としてしまいましたが、11月下旬になって漸く銀杏の黄色が加わり、晩秋らしい雰囲気になりました。穏やかな日和が続いていることもあって、多くの方々が来園・散策されていますし、ハニワたちもいつもより悦んでいるように思えます。



しかしながら岩橋千塚地内には多数の動物が生息しておりますし、クマがいないと決まったわけではなく、またイノシシは時に人間に突進してくる場合があります。鈴など音の出るものをつけたり、グループで散策するなど、ご注意ください。

特別展を開催中です(12月8日まで)

資料館では特別展「遥かなる古墳時代の海へ ―紀伊半島と海をめぐる交流―」を開催中です。西は朝鮮半島から東は房総半島まで、一部日本海側を含みますが、朝鮮半島南西部～瀬戸内海～太平洋の沿岸地域の多くの遺跡の出土遺物を紹介し、海をとおした紀伊との関係をあらためて見渡してみようとした展示で、県内のみならず県外からも多くの方々にご来館いただいています。



関連して開催した5回の講演会も盛況で、好評をいただきました。ご協力いただいた講師の方々、ご参加いただいた皆様に篤く御礼申し上げます。会期は、残すところあと10日。ぜひご来館をと期待しております。

旧谷村家住宅の屋根を修理しました

10月に、部材が腐朽するなど劣化が顕著になり、危険も懸念されていた旧谷村家住宅（県指定文化財）の屋根の修理を行いました。職人さんたちの手によって、腐朽した



りして使用に堪えない木材やカヤを取り除いて新しいものに替え、カヤも叩いて幾分整えてもらいました。下右の修理後の写真を見ると、新しく補った屋根の部分がよくわかると思います。

（左：修理前の旧谷村家住宅屋根）



（上：修理後の旧谷村家住宅の屋根）

（左：修理作業のようす）

ただ、今回の修理は、これ以上放置したら屋根が落ち、建物全体が維持できなくなる危険性を当面回避したという程度の修理に過ぎません。毎日戸を開け、風を通して湿気がこもらないようにし、あるいは火を焚いて燻すなど、保存状態には注意していますが、やはりある程度の期間できちんと屋根を葺き替え、その際に必要な修理を施していくことが建物の維持には必要ですし、その上で体験やイベントに活用していくことが資料館での保存の本来の姿だろうと思います。

風土記の丘にある旧柳川家住宅（重要文化財）では、座敷を利用して、民話を語る会や音楽会が開かれることもあります。ときにはそうした催しに参加して、伝統的な民家のもつ味わいに触れてみるのは如何でしょう。